

「JENESYS2.0」

中国リハビリ関係者代表团第2陣

訪問日程 平成27年5月26日（火）～6月2日（火）

1 プログラム概要

中国リハビリテーション研究センターが派遣した中国リハビリ関係者代表团第2陣計35名が、5月26日から6月2日までの7泊8日の日程で来日しました。（団長：密忠祥（ミツ・チュウショウ）中国リハビリテーション研究センター副主任）

本事業は「JENESYS2.0」の一環として行われ、東京都と鹿児島県、埼玉県を訪問し、厚生労働省や国際協力機構、リハビリ病院等の訪問や交流の場を通して、日本の青年や市民との親睦を深めたほか、日本の科学・歴史・文化等さまざまな視察、参観を通じて、クールジャパンに直接触れ、日本に対する包括的な理解を深めました。

2 日程

5月26日（火）

成田国際空港より入国、浅草寺見学、オリエンテーション

5月27日（水）

厚生労働省訪問・ブリーフ、医療法人社団輝生会 初台リハビリテーション病院訪問、歓迎会

5月28日（木）

独立行政法人 国際協力機構訪問、鹿児島県へ移動、和風旅館での日本文化体験

5月29日（金）

社団医療法人緑泉会 米盛病院訪問、米盛病院関係者との交流会

5月30日（土）

仙巖園・尚古集成館・砂むし会館・焼酎蔵元見学

5月31日（日）

東京都へ移動、TEPIA 先端技術館・商業施設視察

6月1日（月）

国立障害者リハビリテーションセンター訪問、歓送报告会

6月2日（火）

羽田国際空港より帰国

3 写真

	
5月26日 浅草寺見学（東京都）	5月27日 厚生労働省訪問・ブリーフ（東京都）
5月26日 参观浅草寺（東京都）	5月27日 访问厚生劳动省，听取讲座（東京都）
	
5月27日 厚生労働省訪問・ブリーフ（東京都）	5月27日 初台リハビリテーション病院訪問（東京都）
5月27日 访问厚生劳动省，听取讲座（東京都）	5月27日 访问初台康复医院(東京都)
	
5月27日 初台リハビリテーション病院訪問（東京都）	5月27日 歓迎会で挨拶する密忠祥団長（東京都）
5月27日 访问初台康复医院(東京都)	5月27日 密忠祥团长在欢迎会上致辞（東京都）

	
5月27日 歓迎会で江田五月日中友好会館会長と懇談する団員（東京都）	5月28日 （独）国際協力機構訪問（東京都）
5月27日 在欢迎会上与日中友好会馆江田五月会长畅谈的团员们（东京都）	5月28日 访问日本国际协力机构（东京都）
	
5月28日 （独）国際協力機構訪問（東京都）	5月29日 米盛病院訪問（鹿児島県）
5月28日 访问日本国际协力机构（东京都）	5月29日 访问米盛医院（鹿儿岛县）
	
5月29日 米盛病院訪問（鹿児島県）	5月30日 仙巖園見学（鹿児島県）
5月29日 访问米盛医院（鹿儿岛县）	5月30日 参观仙巖园（鹿儿岛县）

	
5月30日 砂むし会館見学（鹿児島県）	5月30日 焼酎蔵元見学（鹿児島県）
5月30日 体験沙蒸温泉（鹿児島県）	5月30日 参观烧酒槽坊（鹿児島県）
	
5月31日 TEPIA 先端技術館視察（東京都）	6月1日 国立障害者リハビリテーションセンター訪問（埼玉県）
5月31日 参观尖端技术馆 TEPIA（東京都）	6月1日 访问日本国立残疾人康复中心（埼玉县）
	
6月1日 国立障害者リハビリテーションセンター訪問（埼玉県）	6月1日 歓送報告会 訪日成果報告（東京都）
6月1日 访问日本国立残疾人康复中心（埼玉县）	6月1日 在欢送报告会上发表访日感想（東京都）

4 参加者の感想

○ 今回、「JENESYS2.0」事業の8日間の日本訪問を通して、日本の国情、国民の心情、文化、技術、リハビリテーションについて、理解を深めることができた。日本はどの分野も非常に発展していて、国全体で国民は安定した生活を送っている。国民に医療保障が行き届いており、高齢者の生活も社会がサポートしてくれる。若者は自主的に社会に参画し、仕事に打ち込んでいる。伝統文化の保存状態も良く、その一方で近代的な文明も受け入れることができる。

この交流活動の主な目的は、日本のリハビリ分野の進んだ管理方法と最新技術を学ぶことだ。8日間忙しく内容豊富なプログラムをこなし、代表団の団員全員が感じたのは、国民全体をカバーしている日本の医療保障システムは完璧で、社会保障制度も完備されているということ。高齢者介護、医療・リハビリサービスの問題を解決していることが、日本人が世界で最も長い平均寿命を実現している主な要因ではないだろうか。次に感じたのは、日本の医療・リハビリ施設は、基本的環境、設備、付加価値サービスといった面において、世界のトップレベルにあるということ。また、最も印象深かったのは、日本のリハビリ関係者のサービス理念と責任感だ。すべて患者を中心に考え、あらゆる方面から多面的な治療とリハビリを施し、何時いかなる状況でも対応する。それが彼らの文化になっているのだ。

帰国したら、日本で見たこと、聞いたこと、感じたこと、得たことを友人や家族に伝え、日本の文化、技術、管理、サービスの優れたところを伝えたい。皆により広く日本のことを知ってもらいたいと思う。日本の外務省、大使館、日中友好会館がこのような貴重な学びの機会を与えてくれたことに感謝する。中日両国の世代にわたる友好を願っている。

○ 日本を訪れる前から、日本人は緻密で、真面目で、環境保護に力を入れていることは知っていたが、今回の活動に参加して、その印象がより強くなった。それと同時に、日本人は誠意にあふれ、もてなし好きだと分かった。どの業界の受け入れ先もとても真剣に対応してくれた。年配の人も熱心に働いており、見た目にも非常に気を使っている。ごま塩頭の男性でも、自分に相応しい服をきちんと身に着けているし、女性も丁寧に化粧を施している。こうした点からも、日本人が人生を心から愛していることが見て取れる。

リハビリテーションの形は多様化している。身体機能を鍛えることは確かに重要だが、日本のリハビリの現場では患者が社会に溶け込むことに重点を置き、独り立ちして職業訓練に参加できるようにするところまで回復することが最終目標だ。患者が身体機能を回復させ、独り立ちし、質の高い生活を送れるようになることを目指し、そのためには医療スタッフのチームワーク強化とコミュニケーションが必要であると提起している。スタッフ1人1人が患者の回復の度合いをはかる主体となっているのだ。

○ 印象的だったことは、美しい自然環境とクリーンな街と、物事の細部やマナーを重視する日本人や医療関係者の勤勉かつ丁寧な仕事ぶりだ。

帰国したら、まずは周りの人々に日本での所感を話したいと思う。①街がとても美しい。国民の生活は安定していて、一般的教養が高く、マナーを重んじ、仕事は真面目で周到かつ実務的だ。②自動車大国だけあり、街を走っている自動車の多くが低排出ガスのエコで経済的なコンパクトカーだ。省エネ意識が国民に深く浸透している。③土地や空間は狭いが、効率よく利用しており、細部にまで工夫を凝らしている。細かなこだわりが土地利用を成功に導いている。④特色ある砂

風呂は、友人に強く薦めたい。また家族と日本に来て体験したいと思う。⑤勉強しようという気持ちで日本にやってきてはいたが、学ぶべきことがこれほど多いとは思っていなかった。

感想を述べるのはここまでとするが、まだまだ考えたことがたくさんある。多事多難な国ほど国民がかえって奮起して国の隆盛をもたらすというのは真理だと思った。中国の復興のために、やるべきことが多すぎる。

○ 気がつくといつの間にか、数日間の活動が終わっていた。感想はたくさんあるが、下記の事柄について述べたい。

1. 都市建設：東京に着くや、とてもクリーンな環境だと思った。地面にはゴミ1つ見あたらず、空気もきれいで土埃がほとんどない。
 2. 効率の高さ：日本人は時間に対する意識が強く、あらゆる事に時間割を作成し、その計画にそって実行する。ロジカルで、物事を先延ばしにすることはなく、仕事の効率が高い。
 3. 生活態度、仕事態度が真面目：日本人は生活も仕事も、どちらもおろそかにすることなく、細かな部分まできちんとやり遂げる。
 4. 日本人は非常に礼儀正しい。
 5. 専門分野について：障害者のリハビリテーションに対する考え方において、中国と日本はまだ大きな差があると感じた。日本では、障害者本人も社会も、障害者が他者に頼ることなく自立することを望んでいる。
 6. 最先端科学技術：TEPIA 先進技術館の参観を通して、地震や自動車、医学といったジャンルを含む、日本の進んだ科学技術の理念を知ることができた。
- 帰国したら、以上のことを中国の人々に伝えたい。

- 1. 日本への旅では、飛行機に乗った時から乗務員のほほ笑みと熱意を感じた。
2. 日本の道路は広くはないがとても便利だ。交通を発達させるには、合理的な都市計画（立体交差など）以上に、ソフト面（国民全体の一般的教養など）と公共の秩序が需要だと思った。
 3. 日本人は礼儀正しく、会った時にはほほ笑み、挨拶する時はお辞儀をし、別れの時は手を振って送り出す。
 4. ゴミが細かく分別されており、一人一人が真剣に取り組んでいる。一人一人の小さな貢献が、国に大きな利益をもたらしている。
 5. 自動販売機や自動照明器具など、自動制御システムが発達している。
 6. 日本は外来の文化を学習し、自国の伝統文化を継承している。とりわけ、日本では古い風習が良い状態で伝承されている。
 7. 日本では、全国民が一生質の高い医療保障を受けることができる。病院数が多く、広範囲に分布しており、最先端の施設が導入されている。これら以外に印象深かったのは、医療とリハビリテーションに対する理念、何事もおろそかにしない日本人の仕事態度、患者の立場で考える細やかな思いやりだ。

○ 光栄にも中国リハビリ関係者代表団として日本を訪問することができ、忘れがたい8日間を過ごした。食事、睡眠、移動時間を除き、実際に視察や交流を行ったのはわずか56時間ほどかもしれない。この56時間の間に、私立のリハビリテーション病院、総合病院、公立のリハビリ

病院をそれぞれ1施設、政府機関1カ所、NGO（非政府組織）1カ所を視察。さらに名所旧跡3カ所と、神秘的な科学技術館を参観。日本をほぼ横断した。

このびっしり詰まった56時間、私は驚かされ放しだった。

病院ごとにそれぞれ特徴があった。初台リハビリテーション病院は各階に配膳室が設置されていた。病人は入院してすぐ細やかなケアを受けることができ、スタッフも病院にいる感覚を患者に感じさせないよう努力していた。このように、患者の立場で物事を考える精神は私たちも学ぶべきだ。米盛病院は、患者の満足度を重視するとともに、スタッフの満足度も重視していた。その考え方は私が今まで聞いたことのないものだ。国立障害者リハビリテーションセンターでは、リハビリの目的について、考えを新たにさせられた。それはすなわち、患者に再び生活能力を取り戻させ、社会の一員として尊厳をもって生きていけるようにすることだ。中国でことさら重要視されているのは、医療のごく最初の段階だけである。

厚生労働省の参観でも、日本の医療・医療福祉システムを理解することができた。また、国際協力機構（JICA）への訪問では、中国リハビリテーション研究センターの歴史について認識を新たにするとともに、日本人との友好関係についても考えが深まった。

日中友好会館の随員スタッフ3名による心のこもった対応で、7泊8日の旅が非常に楽しく、充実したものになったことに心から感謝したい。